

Money meets the Int

執筆

梶山 寛

masuyama@dabb.com

㈱タブ代表取締役、
メディア環境研究者
99年はプロデュースしたゲーム
がNINTENDO64、プレステで発売
URL <http://www.masuyama.com/>

監修

リチャード・マイケル・
ナッシュ

Private Assets Limited 取締役社長
国際金融の専門家として、
国際資産運用に関する
コンサルティングや
講演などを行っている

実践！インターネットユーザーのためのマネー入門



最近、ファンドという言葉をよく見かける。はたして、個人の小額投資家にとってもメリットのある商品なのだろうか。それに、どうも種類が多すぎて何を選べばよいのかが全然わからない。そんな人のために、2回にわたって「ファンド」を取り上げてみたい。今回はファンドの基礎知識と、初心者向き「米国株式インデックスファンド」について。

この記事は特定の金融商品への投資を勧誘するものではありません。運用は目的を持って自己責任で行ってください。

Chapter 5 リスク分散とスケールメリットが同時に！ 米国インデックスファンドをオンライン購入

ファンド(投資信託)の仕組みを知っておこう

インターネットを使った個人の資産運用を考える「Money meets the Internet!!」。早いもので、この連載ももう5回目になる。ドル預金、米国株と進んで来て、今回は米国のファンドを取り上げてみたい。ファンドとは日本でいう投資信託のことで、一般の投資家から広く資金を集め、プロが運用してリターンを配分する金融商品のことだ。日本では、これまで一部の投資家以外にはあまり馴染みのないものだったが、金融ビッグバンの規制緩和を背景に、個人投資家向けの主力商品として注目されている。しかし、資産運用の初心者にとって、ドル預金や米国株は通貨と国の違いがあるだけで比較的わかりやすいのに対し、ファンドは仕組みそのものが難解なイメージなのではないだろうか。

実際、ひと口にファンドといっても、為替、債券、株式といった商品の種類、国や地域、業種、運用手法などによって数千もの種類があり、あまりの選択肢の多さが、とっつきの悪さとなっている面は否めない。ただ、私たちのような個人小額投資家にとって、リスク分散を図りながらスケールメリットを享受できるという意味で、ファンドが非常に有効な仕組みであることは確かだ、少なくともどん

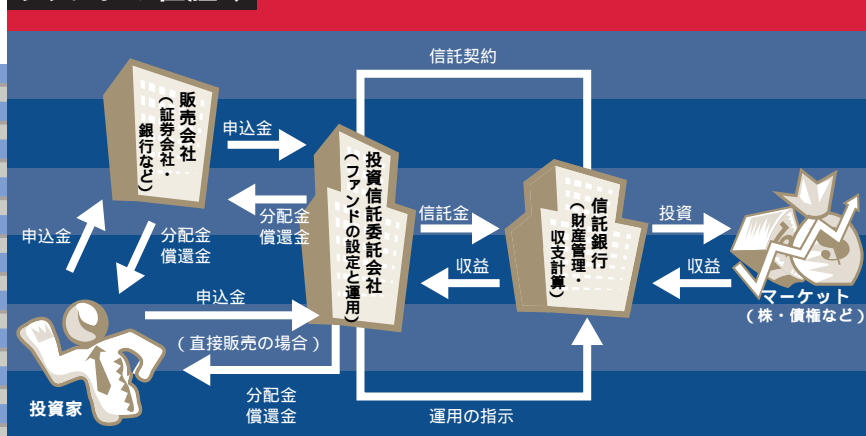
なものかを知っておく価値はあるはずだ。今回、実際にインターネットで購入するのは米国株を対象とするものだが、ファンド自体を理解するために、まず日本国内ファンドの仕組みを見てみよう。ウェブ上では「イサイズマネー」の「ファンドの基礎を学ぶ」(*)が参考になる。

一見ややこしそうだが、ここで登場する主な組織(会社)は次の3つだけだ。ファンドを作る「運用会社」、売る「販売会社」、管理する「信託銀行」。投資家(私たち)は運用会社が設定したファンドを、販売会社を通して、あるいは運用会社から直接購入する。

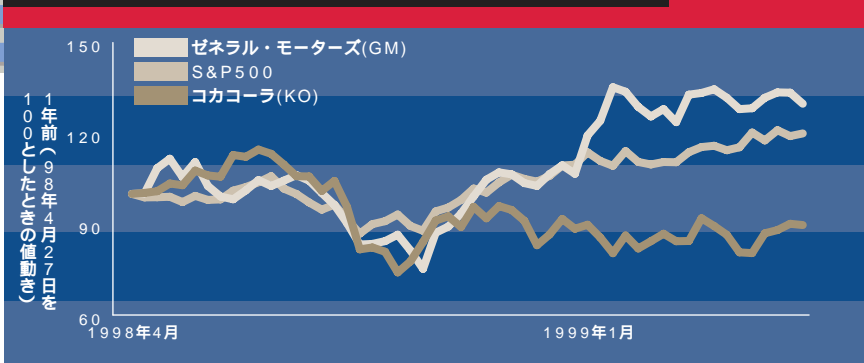
そして、その資金を運用会社が信託銀行に管理と保管を依頼し、運用を指図することになる。これまで、ファンドの販売窓口は証券会社が代表的だったが、98年12月からは、銀行や生保会社での販売も解禁された。最近、銀行などでファンドの案内が目立つようになったのは、その結果なのだ。

今回検討する米国ファンドや、その他の海外ファンドにも国内の販売会社を通じて買えるものがあるが、ここで意図しているのは、米国の販売会社からインターネットで直接「個人輸入」してしまおうというものだ。

ファンドの仕組み



過去1年における個別株とS&P500の値動き



1998年4月27日の価格(指数)を100として、コカコーラ(KO)、ゼネラル・モーターズ(GM)、S&P500の過去1年間の騰落をグラフ化した。個別株(KO、GM)にくらべてインデックス(S&P)が安定して上昇しているのが分かる。これは、S&P500が500社の株価をもとに算出される指数であり、個別株にくらべてリスクが分散されているからだ。

ファンドのメリットとデメリット

では、なぜファンドなのだろう。個別株を買うことと、どう違うのだろうか。ここでは、米国の投資信託格付け情報会社、モーニングスターの「投資信託講座」(①)を参考に、そのメリットとデメリットをまとめてみよう。

「分散投資が図れる」

分散投資とは、文字どおり金融商品の種類や、銘柄、通貨などを分散することによって、リスクの分散を図ることだ。数億円を運用に回せる人ならともかく、ミニマムで数万円レベルから広い範囲に分散投資する方法としては、ファンドがもっとも一般的だろう。対象を広げることでリスクが分散されることは、現代金融理論の基本といわれ、米国では非常に浸透している。

「スケールメリットが取れる」

1人あたりの運用額が小額でも、ファンド全体としては大きな金額になるため、分散メリットだけでなく、オプション取引やヘッジファンドなど、個人では投資しにくい商品を対象にできる。

「換金性が高い」

ファンドは、原則として投資家が希望するときに時価で換金することができる。

「プロに任せられる」

これが必ずしもよい結果を生むとは限らないが、少なくとも時間的なメリットは大きい。個別株投資では銘柄選びに日常的な情報収集や、企業の業績を読みこなす専門的な知識が必要だが、他の仕事をしながらこの部分でプロに勝るのは至難の技だ。



一方、デメリットといえば、やはりコストがかかることだろう。コストには、初期の販売手数料、年間の信託手数料などがあるが、長期投資を前提にしていれば、デメリットの度合いは低くなる。ただし、コストは個別の商品によって大きく異なるため、詳しくはそれぞれの商品情報にあたっていただきたい。

上図は、コカコーラ(ティッカーシンボル=KO)とゼネラル・モーターズ(GM)の過去1年の株価変動を、S&P500(米国を代表する500社の株価指数)の変動率と比較した

ものだ。こうして見ると、500社全体の動きのほうが変動が少なく、安定していることがおわかりいただけるだろう。S&P500やダウ工業平均などの指数を英語でインデックスといい、その指数とほぼ同じ動きを目指すファンドがインデックスファンドだ。つまり、S&P500のインデックスファンドは、500社に分散投資することで個別株の変動率を緩やかなものにしていくのだ。

日本ではまだ目新しい感のあるファンドだが、米国では401kプランという退職企業年金の運用対象として、90年代以降資金の流入が急増しており、サラリーマンにとってはごく身近な金融商品といえる(②)。

関連サイト

「ファンドの基礎を学ぶ」イサイズマネー(①)
<http://www.isize.com/money/investment/tb400/tb401.html>

「401kプランの運用機関別シェア」
 CSK技術通信(②)
<http://www.esk.co.jp/fw/30/401k.html>



①「投資入門」
 モーニングスター社の日本人のサイトでは、ファンド入門のページが充実
http://www.morningstar.co.jp/learn/index/index_in.htm



②「(社)証券投資信託協会」
 国内ファンドの運用成績がわかる
<http://www.highway.ne.jp/toushin/>



③「ミューチュアルファンド・インベスター・センター」
 米国ファンドの基礎を学ぶのに最適
<http://www.mfea.com/educidx.html>

ファンド情報の収集にはインターネットが抜群

ファンドという商品が決して特殊なものではなく、ある程度リスクを取れる小額投資家にも向いていることがわかってきた。また、実体的な商品ではないため、格付けや評価などインターネット上の情報が充実しているのが嬉しい。では、数あるファンドの中から、何をどうやって選べばいいのだろうか。まず知っておくべきなのはファンドの大きな分類だろう。基本的な部分だが、「国内ファンド」と「海外ファンド」の分類が、かなりややこしい。海外に投資するものでも、日本国内で円建てで設定されるものもあれば、逆に、米国でドル建てで日本株に投資するファンドもあるからだ。ここでは、わかりやすくするために購入先で分けてみよう。

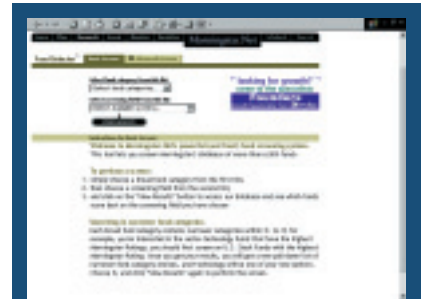
まずは、証券会社など国内の販売会社で買うもの。ここでは円建て、外貨建ての2種類があり、後述する運用対象や方針によってさまざまな種類がある。本やレコードであればこれが日本国内の店で輸入ものや日本版を買うことにあたる。一方、ファックスや郵便、インターネットで「個人輸入」的に購入できるのが、米国のファンド（米国ではファンドという単語に広い意味があるため「ミューチュアルファンド」と呼ばれる）と、次回取り上げる予定のオフショアファンドだ。

そして、国内外のファンドを問わず、地域や業種、規模、また、債券と株式の割合などの方針によって、多種多様なファンドが販売されている。下の表では、代表的なものをいくつか挙げているが、このほかにも成長株（グロース）か割安株（バリュー）か、ブル市場（値上がり）かベア市場（値下がり）かな

ど、さまざまな対象に向けてファンドが開発されている。最近では、ファンドの分散性をさらに高めるためにファンド自体に投資する「ファンド・オブ・ファンズ」というファンドも登場して人気を呼んでいるそうだ。

ファンドの具体名や運用実績を手軽に知るには、モーニングスターの米国サイトが便利だ(④)。プルダウンメニューから「U.S. Stock Funds」と「Total Return % : 1 Year」を選び、その下の「View results」を押してみよう。過去1年のリターン実績順にファンドが表示される。5月10日現在では「Bridges Investment」というファンドが、なんと591%もの高騰を示している！ファンド名の左には、株式と同じような「ティッカー」(略称)があり、そこをクリックするとファンドの過去のチャート、星の数で表示されるモーニングスター社の格付け、S & P 500などベンチマークとなる指数との比較のページを見ることができる。

しかし、年間の騰落率が数百パーセントという部分にだけ目を奪われるのは早計に過ぎる。もとより元本保証ではないし、スケールメリットが活かせる分、ハイリスク・ハイリターンを狙うファンドも少なくないからだ。米国ファンドへの投資を本格的に考えている人は、モーニングスターが選んだ500種のファンドが掲載されている書籍「Morning Star 500」などで基礎的な情報を学んでおきたい。モーニングスターのサイト(*3)からも、アマゾンコムからも30ドル程度で入手できる(送料別)。



④ モーニングスターのファンド検索画面(一部会員制)
http://www.morningstar.net/nd/NSAPI/nd/Research/FundInterim

さて、ここまで非常に駆け足で米国ファンド(=ミューチュアルファンド)の入り口付近を見てきたわけだが、現実的には、初心者が数千に及ぶファンドの中から、自分の目的やリスク許容度に見合ったファンドを見つけるのは非常に難しいだろう。また、まったく別の問題として、米国ファンドを米国の非居住者に直販することは、未だにSEC(米国証券取引委員会)からYESともNOともされておらず、法的にグレーゾーンという状況がある。実際、この連載で口座を開いたDATEKでは購入が可能だが、FidelityやVanguardなどの大手ファンド業者では、非居住者外国人の口座開設を認めていないのだ。

プロの運用を圧倒するインデックスファンド

日本に住む私たちにとって米国ファンドは意味がないのだろうか。少なくともDATEKからは株と同じ感覚で購入できるので、あとは考え次第ということになる。ただ、それにしてもファンド選びという難関が待ち構えていることは変わりがない。初心者にもわかりやすく、ファンドとしてのメリットが受けられるのは、むしろ前ページで少し紹介した「インデックスファンド」ではないだろうか。主なものであれば、株式市場に銘柄として上場されているので「非居住者問題」も気にせず済む。

このインデックスファンドを『普通の日本人が金持ちになるべきだ』という原題の著書ですすめているのが278ページのインタビューに登場していただくエリック・ガワー氏だ(邦題『日本は金持ち。あなたは貧乏。なぜ?』)。詳しくは、インタビューに譲るが、その本で明かされる衝撃的な事実は「プロが運用するファンドの9割は、市場インデックスよりも実

ファンドの種類

運用対象	呼称例
通貨	マネーマーケットファンド(MMF)
債券 / 株の割合が一定	バランス
地域	ワールド、エマージング(新興国)など
業種(テーマ)	ハイテク、エコロジーなど
指数	インデックス

績が低い」というものだ。つまり、膨大な情報と緻密な計算によって配分されたファンドよりも、S & P500の500社に機械的に割り振ったファンドのほうが、9割方成績がよいというのだ。Yahoo! Financeでティッカー「SPY」を入れてみてみよう(*5)。1株の金額はS & P500値の1/10で、現在は133.25ドル。ちなみに5年前には45.8125ドルだったので、何と約2.9倍という計算になる。史上最悪の低金利環境に甘んじていながら、時間も情報も限られた日本の投資初心者にとっ

ては、非常に魅力的な話ではないだろうか。しかも、このインデックスファンドはインターネットで簡単に買えてしまうのだ。先ことは誰にもわからないが、米国株が1920年代以来75年以上にわたって、右肩上がり基調で来ていることは歴史上の事実なのだ。



関連サイト

書籍『モーニングスター500』の紹介(*3)
<http://www.isize.com/money/investment/tb400/tb401.html>

「S & P500社のリスト」S & P(*4)
<http://www.esk.co.jp/fw/30/401k.html>

「S & P500 インデックスファンドのチャート」Yahoo! Finance(*5)
<http://quote.yahoo.com/q?s=SPY&d=5y>

実践編

DatekでS & P500 インデックスファンドを購入!

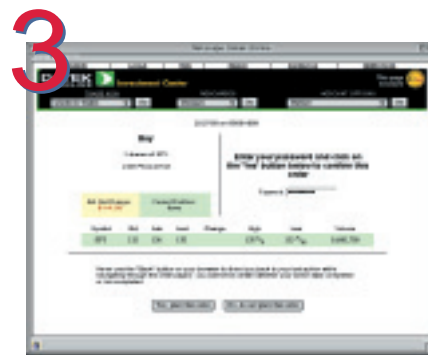
米国を代表する株価指数、S & P500の1/10の値動きをするインデックスファンドがSPY。株と同じ方法でDatekから簡単に購入できる。



1 ログイン直後の画面。初心者はOnline User Basicsを読もう。左上のGoをクリック。



2 Stock SymbolsにSPYと入れてGet Quoteする。右にあるS & P500値の1/10であることがわかる。



3 132ドルの指値、注文の有効期間1日、1単位の注文を出した。パスワードを入れてYesで注文完了。



4 確認のメッセージが出て、再びQuotes & Trades画面に戻る。あとは売買成立を待つだけ。

ファンドを探すには...



左上のプルダウンからMutual Fundsを選ぶと、Datekで買えるファンド群の一覧が見られる。



Datekのトップページ。口座開設の申し込みもWEB上からできる。
<http://www.datek.com/>

「普通の日本人が 金持ちになるべきだ」



エリック・ガワー

Eric Gower

1961年米国生まれ。カリフォルニア大学パークレー校卒業。「アトランティック・マンスリー」誌の編集者を経て、日本の経済企画庁の英文ライター、NIRA（総合開発研究機構）レビュー誌の編集者などを歴任。投資家としても私的にファンドの運用を手がける。

『日本は金持ち。あなたは貧乏。なぜ?』は、インターネット世代にピッタリの画期的な海外投資入門書だ。著者の1人エリック・ガワー氏の話聞きに、氏の自宅を訪ねた。

本を書かれたきっかけは?

ガワー: 0.35%といった郵便貯金の超低金利です。私にはたくさん日本人の友人がいますが、みんな、それ以上の見返りを得るべきだと思いました。もっとうまくお金を運用する方法があるのだ、ということをごく一般の日本人の方に伝えなかったのです。貯蓄(saving)と投資(investing)は別ものなのに、その違いを認識されていない方が多いようです。貯蓄では、あなたのお金は何もしまませんが、投資では、お金が「働いてくれる」のです。自分が寝ている間に、働いてくれるものがあるのはステキなことですよ(笑)。日本では、その方法があまり知られていないので、それを知らせたかったのです。

では、ズバリその方法とは?

ガワー: それにはいくつかのステップがあります。まず「経済的独立」(Financial Independence)がしたいと真剣に考えることです。それは、お金を他人に依存しなくて済む、もし働きたくなければ動かなくてもよい状況のことです。これまでの日本社会では、1つの会社で長期間働き、給料を郵貯や銀行に預けておけば少しは増えるというのが普通でした。しかし郵貯や銀行だけでは、経済的独立は不可能です。

次にその方法ですが、その前に株式市場にお金を投資することは、ラスベガスで遊ぶのとは違うことを強調しておきます。市場が、株という仕組みの本質に合致した「所有権の市場」として機能していれば、株式投資はギャ

ンプルではありません。しかし残念ながら、日本市場はそうに機能していません。初心者におすすめるのは、米国市場です。もちろん米国も完璧とは言えませんが、自由市場の原則に限りなく近い状況にあると思えるからです。

しかし、今の米国市場は高過ぎるという意見もあります。

ガワー: そうですね。そこで2番目の原則は「定期的に長期運用する」ことです。米国株式市場は過去70年にわたって、ほぼ右上がりで推移しています。あの1929年の大暴落の直前に高値で買った人でさえ、長期的には利益を得ているのです。確かに今は高過ぎるかもしれませんが、長期的には右上がりの状況がこれからも続くと考えています。長期で考えれば、米国株式市場はとても安全な投資対象なのです。最低限10年、できれば20年や30年と、長くなるほどベターです。毎月2万円を年15%の複利で運用すれば、30年後には1億2000万円になるのです。郵貯では(0.35%として)、30年で784万円にしかなりませんが……。

だから、投資対象は米国市場でなければならぬということですね。

ガワー: いいえ、「~なければならない」ということではありません。私のアドバイスは、一般的に言って日本やアジアの市場を避けようというものです。欧州市場もいいかもしれませんが、対象が複数になると状況も複雑化し

ます。初心者にとって、物事はできるだけシンプルにしておくべきでしょう。この本の中で私たちがすすめているシンプルな方法は「インデックスファンド」です。個別銘柄のリサーチも、銘柄選びの苦心も要りません。単に市場と連動して動く「インデックス」を買えばよいのです。それに、ほとんどのファンドマネージャーは市場の動きよりも実績を上げられませんが、ごく普通の日本人で、経済もお金も株も、何も知らない人でも、インデックスを買えば、プロのファンドマネージャー10人のうち9人に勝つことができるんです。信じがたいことですが、これが事実です。残り10%の最優秀な投資家を代表するのはウォーレン・バフェット氏ですが、彼の会社であるパークシャー・ハサウェイの株を買うことで、世界一のファンドマネージャーを「雇う」こともできるのです。ファンドや株の売買にはインターネットが最適でしょう。



『日本は金持ち。あなたは貧乏。なぜ?』

著者: R・ターガート・マーフィー、
エリック・ガワー

発行: 毎日新聞社

価格: 本体1400円+税

ISBN: 4-620-31292-4



「インデックスは市場も分散すべきです」

ファンドの基本は、普通の個人投資家では難しい多額の資金を複数の人から集め、スケールメリットを活かしてプロが運用することです。1人では作れない大きいパンも、皆の小麦粉を出しあって作れば全体が膨らんでくる、とでも言いましょうか。そして、均等にスライスされたパンを、出した小麦粉の量に応じてもらう訳です。S & P500のようなインデックスファンドを、20年～30年という長期で持っていれば上がっていくだろうというのは確かです。資産の配分に関しては何も考えなくてよいので楽です。また、ほとんどのファンドマネージャーがS & Pのインデックスより、よい成績を出していないのも事実です。

ただ、米国以外の地域にも分散するべきでしょう。インデックスファンドなら、日経225やイギリスのFTSE*といったものです。それにS & P500は米国株への投資ですから、変

動率は決して小さくありません。投資家が3年後に必要なお金をつぎこんでいて、3年後にドーンと下がったらどうしますか？ その意味では、もっと保守的な、たとえば債券市場へのと投資も考えるべきです。

「今の米国株式市場は高過ぎる」という考え方もあります。ダウは、明らかに行き過ぎでしょう。今の、ゲーム感覚とも言える乱高下状況は常軌を逸しています。みんな1回やケドをしないとわからないのかもしれない。日々の瞬間的な上げ下げで稼ぐデイトレーダーには若い人が多く、この10年くらいの好調な米国市場しか知らないのです。モメンタム（勢い）だけで買いが入っていることも、多いのではないのでしょうか。

あとは投資家の年齢も関係してきます。今65歳で定年を迎え、生活のための安定収入が一番大事な方に「全部の資金をS & Pにつ



リチャード・マイケル・ナッシュ
国際資産運用コンサルタント。著書『日本人のための
オフショア金融センターの知識』（ダイヤモンド社）
も好評。

ぎ込みなさい」とすすめるのは、明らかにおかしいと思います。世の中、インデックスファンドさえ買っておけばOK、というほど単純ではないということでしょう。

*日本とイギリスの代表的株式指数

マネー入門者のためのキーワード解説

インデックスファンド

東証株価指数や日経平均株価などの株価指数と連動するように銘柄を組み込んだ投資信託。常に市場平均並みの運用成果を上げることを狙う。たとえば、日経225平均株価に連動したインデックスファンドの場合、できるだけ日経225の値動きに近づけることが評価される。米国ではS & P500インデックスファンドやNYダウ平均株価指数のインデックスファンドなどが有名。

投信の直接販売

投資信託会社が、証券会社や銀行を通さずに投資家に自社の商品を販売すること。大蔵省では1992年4月から投資信託の直接販売を認めていたが、販売にかかるコストが大きくなることなどを理由に実際にはほとんど行われていなかった。ところが、近年ではインターネットなど低コストの販売チャネルの登場で、積極的に直販を行う会社が増えてきている。

格付け

債券やコマーシャルペーパー（CP）、資産担保証券（ABS）などの元本や利子の支払いに関する安全性の度合いを簡単な記号で示したもの。米国では格付け制度がかなり発達しており、ムーディーズ・インベスターズやスタンダード・アンド・プアーズ（S & P）が格付け会社として知られている。

日本では日本格付投資情報センター（R & I）や日本格付研究所がある。企業が起債などを行う場合には大蔵省の認定を受けたこのような会社の格付けを取得しなければならない。最近では倒産の増加などから、格付けの重要性がさらに高まっている。

ミーチュアルファンド

米国でのクローズドエンド型投資信託（発行証券の買戻しを認めず、発行証券を証券取引所に公開して売買を行う投資信託）の通称。

ミーチュアルファンドは会社型とトラスト

型に分類され、前者は投資信託が株式会社組織で経営されており、投資家は会社が発行する株式を購入するもの。後者は個々の投資家と経営者の間に信託契約が結ばれ、受託者としての経営者が発行する収益証券を投資家が購入するタイプ。

次回(最終回)予告

インターネットで調べる「オフショア」ファンド

「オフショア」とは非居住者の資産が軽減課税になる地域のこと。日本ではややダークなイメージだが、スイスや香港もオフショアの代表であり、運用先としてごく真つ当な場所なのだ。オフショアファンドをオンライン購入することはできないが、リサーチにはインターネットが大活躍する。プロにもあまり知られていないオフショアの世界を、インターネットで探ってみよう。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp